時事新報

李鴻章の渡來、媾和の談判

敵國の請和使李鴻章の一行は豫期の如く昨日馬關に來着したり我全權たる伊藤陸奥の二大臣も既に同地に在りて右の一行を待受けたれば全權委任の手續にして前回の如き不都合を認めざるに於ては談判は直に開かるゝことなる可し抑も彼が請和使を派遣するに至りたる其事情を如何と云ふに或は今日を爲りては彼に於ても速早や勝算のある可きに非ず若しも今後戰爭を繼續するときは北京の陷落も目前にして非常の損傷を蒙らざるを得ず彼の頑愚無知の支那人も茲に悟る所ありて平生の傲慢不遜にも似ず平和論の主張者なる李をして請和使として自から渡來せしむるに至りし次第なれば名みを請和と稱すれども其實は力盡きて降伏するものと同樣にして其窮迫想ひ見る可し左れば我より指命する條件は一切として聽かざるなく惟命のまに從ふならんとの說もあれども又これに反して驕慢倨傲、死に至るまでも悔ひざるは支那人の特性にして殆んど常理を以て解す可らざるものあり李鴻章が今度の戰爭に敬き準先して和議を唱へ又自から責任を負ふて使節の任に當りたるを見れば稍や事理を解するもの〻如くなれども彼も亦等しく支那人にして傲慢の性質は免る可らず或は彼の心に於ては茫々たる中華の大國を以て苟も日本の如き蕞爾たる小國に對して讓る所あるのみなら ず世界に有數の人傑として諸外國人さへも感服したる有名の李中堂が自から出でゝ使すとあれば日本人は之に滿足して必ず多きを望まざるみとならんなど自から傲慢の愚書を書つゝ來りしやも知る可らず而して彼は其結果を嘉らして國に歸り日本人を說付て閉口せしめたりなど吹聽し以て自家の勢力を張るの材料に供せんとするの野心もあるとならんなれば彼我の望む所は案外の相違を呈するならんとの說もなきに非ず我輩の所見を以てすれば彼が請和の事情は觀る角もとして今や我作戰の計畫は次第に歩を進め連戰連勝の勢に乘じて北京に進入するは數旬の間に在るのみか國內一般の輿論を如何と云ふに彼の倨傲を擯て充分に交戰の目的を遂せんとするには是非とも北京に進入して日本の勢力を彼等の眼前に示さゝる可らずとて請和使の渡來の如き事ろ遠慮に思ふの情なきに非ず日本人が北京の進擊を希望するは敢て戰を好み敵の首府の陷落を見て快しとするものに非ず只かくの如くせざれば彼等をして自から懲らしむるに足らざるが故に交戰最後の目的として其必要を期するみとなれば彼の使節にして自から自國現在の地位事情を明にし大に悔悟の情を表して實際に北京を失ひたると同樣の覺悟を以て和を請はんとならば直に事の落着を見るみとならんなれども若しも然らず彼は尚ほ偽りを弄して多少にても自から挾む所あるに於ては御苦勞ながら折角の渡來も徒勞に歸し却て新來の客を北京に迎ふるに至らんのみ

雜報

○上奏案

自由党、改進、東新、國民、大手倶樂部等の各派は交渉の末陸海の軍隊に慰勞の上奏案を提出するに決し

○決議案

各派交渉の末陸海の軍隊に慰勞謝恩を贈り且つ媾和の時機未だ到らずとの意味を含める上奏案を提出するみとに決定し未廣重毅氏起草の案文に修正を加へ本日の議場に提出するよし

未廣重毅氏に案文の起草を託し其案文につき昨日議院內にて各派の委員協議するところ多少文字を修正し本日の議場に提出するに決したりといふ

○沈没の敵艦

軍艦從軍者　宮本芳之助

沈没艦定遠

沈没艦定遠は引揚げて修繕せば或は我用に供し得べきや否やは是れ世人の最も聞かんと欲する所なれども各方面の戰闘さまに酷にして進軍の一方に急を告ぐるの今日應艦利用の策を講ずる暇もなければ別に之を取調べたるものもなく唯一見の上にて說を爲すに過ぎず、つまり水損論にして判然せざれども各艦員の同艦に對する觀察談を掲げんに同艦は中央の要部全く破碎して前後兩部に中折したるが如くなれども其實損傷は上甲板の中部に留りて下甲板は左までのみとあるまじく後部の艦底は水雷のために全艦を擊沈したる程なれば其損傷小ならざるべしと雖も音に聞えし甲鐵艦が一二の水雷のために再び用ゆべからざる程の大破損あるべしとも思はれず畢竟修繕して復た戰闘に用ひられたるものの如くなれども其實は力盡きて降伏するものみ大切なる下甲板より以下の機關部に何等の障りなきを以て同艦をして再び用を爲すとすれば再度の破碎が果して同艦は能はざらしむるまでに粉碎したるや否やの疑問を解決したる上にて初めて我用に供し得べきや否やを判定し得べし既に自ら破碎して敵の用に供せしめざる程なれば其損傷小ならざるべしと雖も音に聞えし甲鐵艦が前後兩部に中折したるが如くなれども其實損傷は上甲板の中部に留りて下甲板は左までのみとあるまじく後部の艦底は水雷のために全艦を擊沈したる程なれば其損傷小ならざるべしと雖も音に聞えし甲鐵艦が一二の水雷のために再び用ゆべからざる程の大破損あるべしとも思はれず畢竟修繕して復た戰闘に用ひられたるものの如くなれども其實は力盡きて降伏するものみ大切なる下甲板より以下の機關部に何等の障りなきを以て同艦をして再び用を爲すとすれば再度の破碎が果して同艦は能はざらしむるまでに粉碎したるや否やの疑問を解決したる上にて初めて我用に供し得べきや否やを判定し得べし既に自ら破碎して敵の用に供せしめざ